

設備投資

「皮革クリーニングおよび 着彩サービス」の機械化による 生産性の向上

有限会社 いなづま



劇的な効率性改善を実現した
石油系ドライ機ならびに
高回収乾燥機

着彩前



着彩後



見事な仕上がりが評判の同社の着彩技術

企業情報

会社名 有限会社 いなづま
代表者 代表取締役 嶋崎 安雄
所在地 〒874-0905 大分県別府市上野口町23番3号
TEL.0977-22-9268 FAX.0977-22-9267
E-Mail inazuma@carol.ocn.ne.jp (担当 嶋崎 弘香)
事業内容 洗濯・理容・美容・浴場業
資本金 300万円
設立 1994年11月10日(創業1970年)
社員数 8人

概要

当社が提供する「皮革クリーニングと着彩サービス」において、現在、手作業で行っている工程を機械化し、飛躍的に生産性を向上させるとともに技術者を育成し、受注の拡大、収益性の改善を図る。

背景・経緯

皮革クリーニングにおける 着彩サービスが大きな反響

有限会社いなづまは、ホテルや一般消費者に対して、リネンや衣類等に係るクリーニングサービスの提供を行う老舗クリーニング店。大手クリーニング代理店による安価なサービス提供等により売上が減少傾向にあることから、既存事業を補うために2010年から「皮革クリーニングと着彩サービス」（以下「着彩サービス」）を開始。本サービスについては同年に経営革新計画（2012年10月に終了）の承認も受けている。

有限会社いなづまの着彩サービスは、長年の使用等により色落ちしたバッグ、靴などの皮革製品に染色を施すことにより、購入時のように復元させたり、また、一部を色替えする等により別製品のように再生（リフォーム）するものである。

着彩サービスの顧客満足度は高く、その評判は口コミで広がり、県内外の一般個人客からの受注が順次増加し、リピート率は8～9割を保持している。見本市やイベントへの積極的参加も、新規顧客の獲得に貢献した。同社の卓抜した技術が支える優位性は他社を圧倒し、技術的に対応できない同業者から海外有名ブランドのバッグ、靴等の発注が届くこともある。

ただし、いわゆる職人仕事だけに、効率面における課題は多々ある。本事業では、機械設備を導入することで効率を高め、着彩サービスの売上をさらに増加させることを目的に行った。

事業内容

「洗濯」「乾燥」工程の機械化が 大幅な作業効率の改善に寄与

着彩サービスの作業工程において注目すべきは、着彩に適した「下地処理」、元色を再現する「調色」、そして独自の「着彩」手法にある。

一般的に製品が色落ちした箇所の「下地処理」はサンドペーパー等で表面を荒らす作業のみであるが、同社では荒目、中目、細目、仕上げの4段階で処理し、銀面層（なめして染色しただけの表面）を再現することで色むら、色落ちを減少させ、耐久性に優れた着彩を実現している。次の「調色」工程においては、通常は白・黒・茶の3色染料またはその混合色によって行われるところを、独自のルートから調達した6色の染料を用いることで再現力を高め、海外有名ブランド製品のもつ独特の色合いまでも調色できるようになっている。さらにステッチ（縫い糸）部を避ける染色技法（一点差し）を用いる等、同社ならではの「着

彩」手法を採用することで、原色を保持したままの着彩を可能にした。このように「下地処理」「調色」「着彩」の卓抜した技術が、同社の強みである。

しかしながら、上述の「下地処理」「調色」「着彩」の前工程にあたる「洗濯」「乾燥」工程を、同社では手作業で行ってきた。これが平均4～7日もの日数を要し、受注に係る処理能力に限界が生じていた。そのため個人による複数持ち込みや、業者からの大量受注を断るなど機会損失の発生原因になっていた。

同社では本事業により石油系ドライ機ならびに高回収乾燥機を導入。これら設備機器は手作業工程の作業日数を平均1～2日と劇的に短縮することに成功し、着彩サービスの作業効率は大幅に改善された。温度設定や冷凍機能付加等によるカスタマイズも施しており、高級皮革製品に対応する処理能力の確保も万全で、顧客満足度も維持されている。

成果

スピード化による新規顧客獲得。 サービス品質の向上にも貢献

作業日数のスピード化により、同社では、これまで受注を見合わせていた家具店や運送業者等など皮革製品を扱う事業所からの問い合わせが増加。

さらに設備導入による総合的なコストも削減され、価格面での柔軟な対応も可能にした。効率化だけでなく、サービス品質の向上にも繋がっている。

展望

生産性、収益性を高め、 独自技術を引き継ぐ後継者育成へ

安価なクリーニングサービスやコインランドリーの増加など、業界を取り巻く外部環境の変化は、今後も脅威となるであろう。その一方で、一般家庭における「持ち物を大切にする」といった節約志向の高まりは、着彩サービスを提案する機会となり得る。

本事業による一連の導入効果が生産性を高め、収益性向上に寄与することを願いたい。さらに技術者育成により同社独自の着彩技術を承継し、円滑な事業承継を実現することも、次に挑戦する大きなテーマである。

まとめ

point

手作業工程を機械化し、効率性が大きく改善。独自の着彩技術を極め、後継者育成へ繋げていく。